年度末を無事故で

建協大口支部、役員パト

安全管理の徹底を呼び掛けた＝伊佐市の現地

県建設業協会大口支部（藤井和三郎支部長）は19日、伊佐市の会員施工現場で役員パトロールを実施した。年度末の無事故無災害を目指し、さらなる安全管理の徹底を促した。

この日は、県姶良・伊佐地域振興局建設部発注の2災714号道路災害復旧・布計山野線（國玉建設）、2災715号同・同（藤井建設）、2災476号河川災害復旧・羽月川（共同設備工業）など道路・河川の復旧工事を中心に8現場を巡回。現場内や現場事務所、施工状況・進捗等を確認しながら、新型コロナ対策を含め、安全対策が徹底されているか－など入念に点検した。

反省会では、一部指摘事項があったものの、各現場ともおおむね良好と評価。瓜生島修労務委員長（大菱）は「すべりやすい箇所や法面の高所作業など、災害が起こりやすい要因がある。作業前の点検や作業時の確認を徹底し、絶対に事故は起こさないという気持ちで作業にあたってほしい」と述べ、藤井支部長（藤井建設）も「細心の注意と万全の対策で安全作業を」とさらなる注意を呼び掛けた。

県法面防災協会が安全パト

女性視点高く評価

県法面防災協会（上原徳正会長）は19日、葉月工業が請け負う鹿児島市吉野町の現場で安全パトロールを実施した。役員ら8人が参加。女性躍進が生み出す優れた施工体制や衛生環境を高く評価した。

県鹿児島地域振興局が発注した2年度緊急予防治山事業（磯工区）の現場を視察。会員らは、代理人を務める雄城智恵美さんから進捗率や施工状況など聞き取ると、法切工の出来形確認を進めていた現地の様子を入念に確認した。

整然とした現場環境や周辺配慮を高く評価した＝鹿児島市吉野町の現地

講評では、整然とした現場環境をはじめ、事務所やトイレ等の衛生状況を賞賛。周辺の商業施設等に配慮して木製防護柵を用いた姿勢なども評価した上で、ゼロ災推進を願いながら改めて転落事故の防止を促した。

「われわれの業界で女性が活躍する姿を見ることはいまだ少ないが、その視点が生み出す現場環境の素晴らしさを感じた」と話すのは上原会長（鹿児島道路サービス）。「極めて良好であり、完了まで無災害を継続できるよう、意識を高く持ち続けてほしい」と期待した。

パト終了後、「外部からの意見はとても参考になる」と笑顔を見せた雄城さん。一層の管理強化を誓い、「始業前の機械点検などを徹底していく」と力を込めた。

日本技術士会九州本部県支部

他分野から刺激

CPD研修会

日本技術士会九州本部県支部（井内祥人支部長）は20日、鹿児島市のかごしま県民交流センターでCPD研修会を開いた。

鹿児島大学生や会員ら36人が飛行機設計など講話に耳を傾けた＝鹿児島市のかごしま県民交流センター

鹿児島大学生や会員ら36人が受講。飛行機設計のよもやま話（航空機開発・設計事例の紹介）を、第一工業大学航空工学科の野田晋二教授が講演し、構想から設計、製造、試験等の一連の経験から技術者としての心構えなどを伝え、参加者は他分野から刺激を受けた。

同教授は、川崎重工業から出向して教壇に立ち、同社岐阜工場で、航空と海上自衛隊の航空機の開発・設計に従事してきた経験等を紹介。主に空調・冷却・与圧、防除氷等の各システムに携わった。

日本の航空機産業について、「自衛隊機は30～40年間運用する。そのため、設計や現場での技術継承が難しい」と話し、「現存機の改修や能力向上で維持してきた」と説明した。

また、大学では、「旅客機に装着が増えてきたウイングレッド（主翼端の小翼）の風洞実験等や今後、ドローンの研究を開始予定している」と意欲を述べた。

井内支部長（中央テクノ）は「今回のテーマは、九州でなかなか聞けないテーマ。プロセス等について日ごろの業務に役立てば」と話した。

建災防、無災害運動月間説明会

建築分会

建設業労働災害防止協会県支部建築分会（中村明人分会長）と県建築協会（同会長）は19日、鹿児島市の県建築会館で建設業無災害運動月間説明会を開いた＝**写真**＝。会員ら約30人が出席。災害防止対策の周知をはじめ、危険箇所が大きく変わる建設業特有の環境にさらなる安全意識の向上を促した。

講話では、鹿児島労働基準監督署地方労働衛生専門官である赤木章寛氏が、災害発生の現況などを報告したほか、改修に対する石綿対策の規制強化などを解説。

川井田哲副会長（川井田組）は「依然として墜落・転落が多い。年度末の繁忙期、事故に注意してほしい」と呼び掛けたほか、「フルハーネス型安全帯の特別教育の受講も会員に促していきたい」と今後の意気込みを話した。

甑島分会

建設業労働災害防止協会県支部甑島分会（純浦勝志分会長）は19日、薩摩川内市の甑島建設会館で開いた＝**写真**＝。経営者や労務担当者11人が参加。最近の安全衛生の動向などの理解を深め、年度末の労働災害防止に向けて、安全意識を高めた。

説明会では、川内労働基準監督署安全衛生課の太良木則孝課長が、県内および管内の災害発生状況や災害事例をもとに、墜落・転落防止等の具体的な安全対策などを説明した。

子供たちの広場整地

大村報徳学園から感謝状

木場建設、鬼塚鉄工所

県道川内祁答院線で配水管布設工事を行う2社は、薩摩川内市祁答院町の児童養護施設、大村報徳学園で、安全協議会としてボランティア活動を実施。園内広場を整備し20日、同学園の平林輝美施設長から感謝状が贈られた。

安全協議会は、木場建設（木場弘子社長、2－2工区）と鬼塚鉄工所（鬼塚建一社長、2－1工区）で構成。同学園前で工事を進めており、地域貢献の一環として実施した。

広場は、建物跡地となっていた敷地（約270㎡）にまさ土を敷いて整地。子供たちのための遊び場を整備した。

同学園で行われた贈呈式で、平林施設長は「新型コロナウイルスの影響で、園外で遊ぶことが制限され、園内に新たな遊び場が増えた」と感謝の言葉を寄せたあと「安心・安全に心掛け、子供たちにとって、大好きな空間になることを期待したい」と話した。

新たな遊び場の創出に感謝状が贈られた＝薩摩川内市の同学園

木場建設の現場代理人の神原幸雄さんは「地域貢献を通して、未来のある子供たちに、建設業などの働く楽しさを知ってほしい」。鬼塚鉄工所の現場代理人の鍛治屋真人さんは「安心して園生活を楽しんでもらうため、できることをしていきたい」とそれぞれ思いを語った。

橋梁点検データ

来月末まで公開

国交省

国土交通省は、インフラや交通などの情報を地図上に再現した「国土交通データプラットフォーム」に地方自治体10団体の橋梁点検結果データを搭載した。3月末まで地図上から点検記録や写真をダウンロードできるようにする。

プラットフォームは、実世界を仮想空間に再現するデジタルツインの実現を目指し、国交省が開発したもの。気象、交通、インフラ、防災などのデータを地図上に表示し、都市環境の改善、物流の効率化、観光振興のシミュレーションなどに活用する。

山形県、島根県、鳥取県など10自治体の管理システムとAPIで試行的に接続することで、橋梁点検データをプラットフォーム上で公開した。インフラの維持管理データを施設管理者である自治体が共有できるようにし、維持管理業務の効率化を図ることが狙いとしている。

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ